

Minami Kyushu University Syllabus

| シラバス年度 | 2024年度 | 開講キャンパス | 開講キャンパス | 都城キャンパス | 都城キャンパス | 開設学科 | 開設学科 | 子ども教育学科 | | | |
|------------|---|---------|---------|---------|---------|--------|------|------------|-------|---|--|
| 科目名称 | 肢体不自由児の心理・生理・病理 | | | | | | 授業形態 | 講義 | | | |
| 科目コード | 750138 | 単位数 | 2単位 | 配当学年 | 2 | 実務経験教員 | ○ | アクティブラーニング | ○ | ○ | |
| 担当教員名 | 山之内 幹 | | | | | | | | ICT活用 | ○ | |
| 授業概要 | <p>3年次で受講する肢体不自由児教育総論に繋いでいく内容を取り扱う。肢体不自由の原因疾患や肢体不自由児の心理面、生理面の特徴、かかわる上での配慮事項について解説していく。文部科学省の指導資料に示されている肢体不自由特別支援学校に在籍する児童生徒の主な疾患（脳性まひ ベルテス 二分脊椎 他）について、各疾患の原因、症状、学校での対処法について解説する。後半では特別支援学校で行われている医療的ケア、訪問教育の実際、家族支援、関係機関との連携についても紹介する。</p> | | | | | | | | | | |
| 関連する科目 | 肢体不自由児教育論 病弱児の心理・生理・病理 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方と方法 | <p>肢体不自由児・者の実際の生活の様子を紹介する。また主な疾患について学生が理解できるよう解説を行う。その上で、肢体不自由児への接し方を実技を通して学び、肢体不自由児・者の疾患や体の状態について具体的なイメージを持たせる。また教材・教具の製作等を通して、関わる上での留意点についても考えていく。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第1回】 | オリエンテーション 肢体不自由とは 肢体不自由病弱支援学校に在籍する児童生徒の病気について（概論） | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第2回】 | 脳性まひについて1 各タイプの概要せつめい | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第3回】 | 脳性まひ2 アテトーゼ型の児童生徒の心理的特性とかわり | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第4回】 | 脳性まひ3 痙直型の児童生徒の心理的特性とかわり | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第5回】 | 脳性まひ4 低緊張型の児童生徒の心理的特性とかわり | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第6回】 | 筋ジストロフィー症について デュシェンヌ型を中心に解説する | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第7回】 | 脊椎損傷、ベルテスの児童生徒の心理的特性とかわり | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第8回】 | 二分脊椎の児童生徒の心理的特性とかわり（導尿などの自己管理について） | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第9回】 | 抹消神経疾患（ギラン・バレー症候群 他）の特徴と児童生徒へのかかわり | | | | | | | | | | |
| 授業計画【第10回】 | 重複障害（肢体不自由・知的障害）児の特性とかわりについて | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業計画 【第11回】 | 肢体不自由児・者の家族支援の方法 |
| 授業計画 【第12回】 | 肢体不自由児への具体的なケアの方法 身体のリラクゼーションと拘縮予防の方法 |
| 授業計画 【第13回】 | 運動発達と姿勢作り 補助具について |
| 授業計画 【第14回】 | 肢体不自由特別支援学校における医療的ケアと関係機関との連携 |
| 授業計画 【第15回】 | 今日の課題とまとめ |
| 授業の到達目標 | <p>肢体不自由の起因疾患となる病理面と心理及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児・児童又は生徒の一人ひとりの肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。</p> <p>1. 肢体不自由の起因疾患（脳原生疾患、脊髄疾患、抹消神経疾患 他）となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。</p> <p>2. 観察等を通して脳性まひのある幼児、児童又は生徒一人ひとりの肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解している。</p> <p>3. 家族や医療機関との連携の重要性について理解している。</p> |
| 学位授与の方針 (DP)との関連 | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) |
| 授業時間外学習【予習】 | 事前課題の提示 |
| 授業時間外学習【復習】 | 感想課題等の提出 |
| 課題に対する フィードバック | 感想課題にコメントをつけて返す |
| 評価方法・基準 | テスト90%、レポート・授業態度など10% |
| テキスト | 特別支援学校教育要領・学習指導要領（幼稚園・小学部・中学部） 文部科学省（2017） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部） 文部科学省（2017） |
| 参考書 | 障害のある子供の教育支援の手引 文部科学省（2022） 教育支援資料（肢体不自由児） 文部科学省（2013） |
| 備考 | 実技指導も行う |